

平成25年度秋季(平成25年9月～25年11月)旅館営業概況調査 (結果)

台風被害と伊勢・出雲の大遷宮・富士山の人気が続く、インバウンドが回復

平成26年2月6日

一般社団法人 日本旅館協会

一般社団法人日本旅館協会では、昭和39年より会員の営業動向を把握する目的として、主要観光地(温泉地を含む)の会員を対象に春・夏・秋・冬季の営業概況調査を実施している

1 旅館部門の調査結果

平成25年度秋季(25年9月～11月)旅館部門の調査結果では総宿泊単価、宿泊単価が関西・東北・中国・関東で前年比プラスへ。中部・北陸信越・九州が総宿泊単価を落としたが宿泊単価は増加。東北は復興需要で各価格は伸びたが定員稼働率は依然として低い。定員稼働率では中国・関西・中部・北海道・関東で前年を超えたが、東北・四国・九州では伸び悩んだ。

全国平均では総宿泊単価はマイナスになり宿泊単価はプラスへ、定員稼働率は下がった。大規模旅館は宿泊単価・定員稼働率を上昇させ、中規模旅館は総宿泊単価と宿泊単価を伸ばし、定員稼働率は若干落とした。小規模旅館の総宿泊単価は伸び悩んだが、宿泊単価と定員稼働率は伸ばした。この秋季は全国的に猛暑や台風などの天候異常が続き各地に定員稼働率の落ち込みが目立った。

全般的に団体旅行がやや低迷し、アベノミクス期待や円安効果でインバウンドが全国的にかなり戻り、特にアジア・台湾の観光客が多い。直前やネット予約が多くなり不安定な状況になってきた。

総宿泊単価は18,480円で前年比0.5%減、北陸信越は23,105円で0.6%減、関西は22,091円で3.2%増、東北は18,893円で前年比3.7%増加、四国・中国も若干増加した。

宿泊単価は12,950円で前年比3.7%増加、中国13,168円で4.1%増加、関東14,002円で3.7%増加、中部13,411円で3.4%増加、北海道と四国が減少した。

定員稼働率は9月36.1%、10月40.3%、11月38.5%。前年比では中国・中部が遷宮効果で大きく伸ばし、関西・関東・九州・北陸信越が良く、東北は8・9月が減少している。

客室利用率は全国で65.1%、前年比0.2%増加ではあるものの、年々客室利用率が上がっても一室当たりの利用人員は下がり、団体客が伸び悩み、個人客・家族客により率が上がっても定員稼働率は伸びない。

規模別総宿泊単価は大規模17,779円で前年比0.0%、中規模17,496円1.4%増、小規模は21,783円で2.2%減になるものの各単価が大・中規模より小規模旅館が高い傾向になる。

観光地別の定員稼働率は遷宮効果で出雲湯の川、三朝、玉造松江、志摩半島、伊勢鳥羽、宮島宮浜、富士五湖、西伊豆等が伸び、他では定山溪、京都、城崎湯村、箱根湯本温泉が伸びている。

2 ホテル部門の調査結果

ホテル部門の調査結果の概要は以下の通りである。

総宿泊単価は7.440円、前年比0.9%減。東北や関東・九州が伸びている。

宿泊単価4.977円、前年比0.0%。関東や関西が伸びる。インバウンドの客が多いことホテルの対象になる件数が少ない関係から参考とされたい。

定員稼働率は57.2%で前年比7.1%増加。

客室稼働率は71.3%で前年比プラス7.5%となる。個室の割合で旅館との比較は難しい。

3 当季(秋季)の状況

全国的に猛暑、台風に見舞われて団体客の伸び悩みがみられ、大会・イベントで集客した観光地・都

市ホテルが比較的多かった。伊勢神宮・出雲大社の大遷宮によりその周辺地域に多くの観光客が依然として集まり、西日本・東北の一部にマイナス影響がみられた。アベノミクス効果や円安の影響からインバウンド客がかなり増加してきた。全体としては昨年より単価も利用人員も伸びていることが目立つところ。

原発事故の風評被害の影響から客足は戻りつつあるがやや戻った程度。依然として伊勢神宮・出雲大社の大遷宮で中部、中国に観光客が増えたが、四国・東北に逆効果がみられた。10月の二回の台風や紅葉の季節遅れによる観光客の減少もみられ、9・10月はかなり厳しい状況であった。

円安効果で各地に外国人が増えてきたが、逆に国内客の低迷と団体客からグループ客・家族客に支えられている。依然としてネット予約の集客や間際予約で個人客が多く、団体旅行客の減少と人数を増やすところも多くなってきた。イベントや学会・大会・祭りも各地にあり宿泊につなげたところもあって、特に地方都市が目立つところとなった。

4 来季（冬季）の予想

アベノミクス効果に期待する声が多く景気回復の期待が多い。インバウンドの増加が各地に見られ、各種スポーツ大会・イベントによる集客に力を入れる観光地・都市が多い。来期予想は前年並みが半数で、減少気味もやや多く、上昇傾向の回答はやや少なかった。世界遺産の富士山周辺では好影響の観光地も多く、年末年始はいずれの旅館ホテルともに多く、その後は例年のようにオフ期に入り予測が難しい状況になっている。電気・燃料コストの増加を懸念、小人数のお客様増加による客室利用率の変化を懸念しており、団体客の減少はかなり深刻になってきた。改装工事や一部で休業の旅館が見られる。

（アンケート発送旅館数3,138社 回答旅館数397社（内ホテル45社） 回答率12.7%）

注）大規模旅館：客室数80室以上、中規模旅館：30～79室、小規模旅館：29室以下の旅館

総宿泊単価：3ヶ月の宿泊料と館内販売等の総売上高を宿泊人数で除した金額

宿泊単価：3ヶ月の1泊2食付き宿泊料及び室料の合計を宿泊人数で除した金額

定員稼働率：3ヶ月の総収容定員数に対する宿泊人員の割合

客室利用率：3ヶ月の総客室数に対する利用客室数の割合

1日1室当り売上：3ヶ月の総売上高を（客室数×91日）で除した金額

問い合わせ先：

- ・一般社団法人日本旅館協会事務局：中村・大熊 ☎：03-5298-2270
- ・株式会社レジャー産業研究所：横溝 ☎：03-3672-3248